

## 小学校英語教育の教材と活動の結びつき

### Teaching Materials and Activities in Elementary School English Education

学生氏名：多並明音、石井駿仁、加藤祐沙

指導教員：高橋和子

明星大学 教育学部 教育学科 教科専門コース 英語コース

キーワード：教材, 活動, 児童理解, 指導上の留意点, コミュニケーション

#### 1. 目的

本発表の目的は教材と活動の結びつきを通して、小学校英語教育の活動に適した教材を選び、良い授業を作ることである。

#### 2. 背景

現在の学校教育の英語教育は、現行の学習指導要領で定められている。その中で、小学校の英語教育は「外国語活動」と「外国語科」に分けられている。「外国語活動」の目標は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる、資質能力」を育成することである。また「外国語科」の目標は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」を育成することである。

これらの目標を達成するために、小学5・6年生の「外国語科」では検定教科書を用いて教育を行っている。検定教科書は、7つの出版社から学年別に計14冊ある。

そして、小学3・4年生の「外国語活動」は領域としての扱いになっているため、検定の教科書は無いが、その代わりとして、多くの学校で『Let's Try』を使用している。

小学校の英語の教科書では、物語の教材が少なくなっている。検定教科書は種類によるが、最も採択率の高い『New Horizon Elementary English』では文学教材は多くても1つか2つしかない。しかし、教科書で取り扱っている物語の数は少ないが、英語の本の読み聞かせの活動を取り入れている学校も多い。

会話教材と物語の違いで、会話教材は限られた短い場面での内容になる一方で、物語ではまとまった英語を読んだり話したりする機会が取れるというのも強みである。

我々が教員として教壇に立った際には、会話・物語教材、そしてそれをういた活動を工夫して行っていくことが必要である。

#### 3. こどもいちょう塾

準備段階では、物語の特色・構成を踏まえて、自分たちで作成した。あらすじは、帽子を失くした少年がお化けと一緒に探しに行く物語である。構成の最中にお話のオチが定まらないことがあった。

そうして試行錯誤していく中で、子供たちが絵本を紙かデジタル媒体のどちらでつくるかといった問題が上がった。デジタル媒体で作るメリットとして、アニメーションのように、彼らが自由に形式やイラストを追加できたり、何か失敗が起きたりしても、すぐに訂正が可能である点などの作業速度の面のメリットが挙げられた。対して、紙で

作るメリットとして、定まった形式の中で、自由な発想をもちいて、実際に目の前で自分の手であれこれ加えることができること、そして何よりも手元に残ることがメリットとして挙げられた。それぞれのメリットを踏まえて議論した結果、手元に残すことができる紙で制作することにした。

活動を行う前段階では、子どもたちが楽しんで工作活動に取り組む一方で、工作がメインで英語を使う活動になるのかどうかということが予想された。

当日は概ね想定通りで、子どもたちは自身の想像力を駆使し、とても面白い発想を用いて楽しんでくれていた。しかし、英語を使わせる機会が限られてしまった点は課題であった。また予想していなかったこととして、子どもたちが追加で絵や紙を使用していたことや、隣の子供たちと自分の内容を自ら共有していたことが挙げられる。

参加者からの声としては、以下のようなものがあった。「英語を学びながら絵本を作れるのが面白かった。」「工作をしながら英語を学べるのが楽しかった。」などである。

#### 4. いちよう塾を通して学んだこと

いちよう塾の活動を通し、気づいたこと、学んだことはいくつかあった。その中でここでは、主に2つを記載していく。

まず1点目は、英語とその活動の捉え方である。英語を通して意思疎通を図る上で、子どもたち自身が積極的にコミュニケーションを取る活動、会話教材を用いた活動は、とても大事である。しかし、今回の絵本工作のように、活動の中で英語を使用する機会を設けていくことも必要である。加えて、その時の学年や習熟度に配慮して単語や必要な表現を補っていくことも必要であると考えた。このような活動を取り入れることができれば、前述した学習指導要領に記された目標である「外国語コミュニケーション能力」育成へとつなげることもできるのではないかと考えている。

二つ目は、教材と活動の結び付けである。教員が良い教材、良い活動を用意していくことは重要で

ある。その両方を活用できてこそ、良い授業を作ることができる。また、児童の実態を踏まえて、活動や教材の選択していくことも必須である。

以上については、当日に具体案、例を用いて発表する。

#### 5. それぞれが教壇で行っていくこと

発表に立つ3人がそれぞれ、授業をしていく中で、どのようなことを意識していくべきかを考えていく必要がある。詳細は当日会場にて発表する予定である。

#### 参考文献

- ・アレン玉井光江他. (2019). 『New Horizon Elementary English Course 5』 『New Horizon Elementary English Course 6』 (東京書籍)
  - ・文部科学省. (2017a). 『小学校学習指導要領平成29年告示 解説 外国語活動・外国語編』 Retrieved October 17, 2023, from [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017\\_011.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf)
  - ・文部科学省. (2017b). 『小学校学習指導要領平成29年告示』 Retrieved October 17, 2023, from [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661\\_4\\_3\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661_4_3_2.pdf)
  - ・文部科学省. (2018) 『Let's Try 1』 『Let's Try 2』 (東京書籍)
- その他参考文献は当日発表する。